

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL: 0466-26-3028 FAX: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp http://jdgs-shonan.ciao.jp/

「茅ヶ崎市ゆかりの人物館」企画展

茅ヶ崎市は「茅ヶ崎市ゆかりの人物館」の企画展として、今回はドイツ人ルドルフ・ラチエン氏 (Rudolf Ratjen) を取り上げます。この企画展は『ラチエン“ワンダー”ストリート: 通りとひとにまつわる3つの物語』と銘打って、以下のような日程で行われます。好ましい企画なので、ドイツ大使館と並んで湘南日独協会も名義後援をすることに致しました。会員の皆様も、是非、この企画展に足を運んでみてはいかがでしょうか。

場 所: 茅ヶ崎市ゆかりの人物館

(茅ヶ崎市東海岸南 6-6-64)

開 館 日: 2016.10.1~2017.3.26 の 金、土、日、
祝祭日

開館時間: 10:00 ~ 17:00

お問合せ: 0467-82-1111 (代) 茅ヶ崎市役所・
文化生涯学習部

ラチエン氏は1881年ハノーファー生れ、1902年(明治35年)に炭酸水販売会社の社員として来日、後に、日本人女性と結婚して、東京青山にラチエン商会を設立。輸入商社としてカメラ、刃物、自動車などをドイツから輸入。茅ヶ崎に土地を購入して別荘を建て、その前の道路に120本もの桜を植えて、美しい環境作りにも貢献。その道路は当時「桜道」と呼ばれていましたが、現在は、同氏の功績を記念して「ラチエン通り」と呼ばれています。ラチエン通りは茅ヶ崎市海側の菱沼海岸へ到る全長約2kmの道路で、「おばけ烏帽子」岩も見通せる道路です。「茅ヶ崎市ゆかりの人物館」もこの道路沿いにあります。同氏は1947年(昭和22年)にこの地で66年の生涯を閉じました。



湘南オクトーバーフェスト

10月9日(土)

午後3時スタート

急ぎご予約下さい!

詳しくは同封のチラシと本会報
の2ページをご覧ください!

湘南日独協会の行事予定

■Schwätzerei am Stammtisch 第23回:

日時 9月9日(金) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■9月例会 講演会

「ドイツ航空史と日本」

講師 藤野 満氏 (航空史家)

日本のみならず、世界に貢献した、あまり知られていないドイツ航空産業の紹介です。

講師は、川崎重工業でジェットエンジン関係の仕事に従事し、エアバス A320 エンジンの5ヶ国共同開発・販売にも参加しました。

日時 9月25日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

懇親会 宗平(会費4,500円)

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第42回

日時 9月30日(金) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■湘南オクトーバーフェスト

日時 10月9日(土) 15:00~

開場 藤沢商工会議所ミナパーク

■Schwätzerei am Stammtisch 第24回:

日時 10月14日(金) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第43回

日時 10月23日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■藤沢国際交流フェスティバル

なお、ブースではビールとプレッツェルの販売を予定しています。また、「ダンケシェーン」の演奏もあります。皆さんの参加、ブースのお手伝いも大歓迎です。

■かまくら国際フェスティバル

日時 11月13日(日) 10:00~15:00

会場 鎌倉 高德院(鎌倉大仏)

今年のブースは会場入り口に近い場所となりました。恒例の「ダンケシェーン」の演奏の他会員の協力を得て、焼き菓子などの販売を予定しています。参加者は入り口で係員に申し出ると拝観料が免除されます。

■11月例会 講演会

「子どものQOL (Quality of Life)

と自己主張」—日本とドイツの比較から—

講師 柴田玲子氏 聖心女子大学文学部心理学科准教授 本「子どものQOL 尺度、その理解と活用」を編集著作、また昨年、上記研究内容に関するアンケート調査を実施

日時 11月27日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

懇親会 会場・会費未定

■ 2016年望年会

日時 12月25日(日) 15:00~17:30

会場 イタリア・レストラン (Portovino)

詳細は次号でお知らせします。

オクトーバーフェストの予約

同封の振込用紙に、参加者全員の氏名を書き、お振り込みください。振り込みが確認できた時点で、参加者名簿に記入させていただきます。

振り込み用紙の受領書は、念のために、当日ご持参下さい。

振込締め切り 10月3日(月)まで

*振込確認には3日前後かかりますので、なるべく早くお振り込み願います。

なお、10月6日以降のキャンセルについては返金しません。それ以前については半額返金します。詳細のお問い合わせは以下へお願いします。

045-864-0104 大澤

特別例会(7月29日)

「志賀トニオ氏のレクチャーコンサート」を聞いて

会員 辻川一徳



志賀トニオ氏と辻川一徳氏

ドイツ・プレーマーハーフェン歌劇場のコレペティトール兼指揮者として活躍している志賀トニオ氏が7月29日、湘南日独協会の特別例会として、藤沢カトリック教会のホールで「レクチャーコンサート」を開いた。同氏は昨年、湘南日独協会のために講演を行ったが、今回はピアノを弾き、時には自分で歌いながら、実践的でたいへん興味ふかい話をしてくれた。

トニオ氏の講演は3つの部分に分かれ、まず「第1部」はコレペティトールという仕事と、ドイツのオペラ界の状況について話をした。コレペティトールとはオペラ劇場でオペラ歌手に稽古をつけるピアニストのこと。指揮者への登竜門ともなっている。プレーマーハーフェンはプレーメンからおよそ30kmの港湾都市、人口は10万人あまりだが、歴史的にはかつて大勢の移民がアメリカ大陸へ向けて旅立って行った玄関口であり、今は風力発電などで経済的にも発展している。劇場も経済的余裕があり、専属歌手のレベルも高い。トニオ氏はロストック音楽大学で指揮法を学び、ワイマールのナショナル劇場のオーディションを受けてオペラの世界に入った。ドイツ全土にはおよそ70のオペラ劇場があるが、そのスタッフは専属歌手も含めて全員、公務員であり、安定した生活が保証されている。このような制度はヨーロッパでもドイツだけのこと。子供のころからオペラに親しめるようになっているというドイツの文化風土に羨望のため息を禁じえなかった。(続く)



第2部でトニオ氏は「魔笛」を題材に、ピアノを弾き、時には歌いながら、主に「調性」の重要性を語った。「魔笛」はモーツァルトがその生涯の最後の時期、興行師シカネーダーの依頼で書いた。王侯貴族のためでなく、一般大衆を観客として想定し、「ジंकシュピール」のレベルを高めたものだという。まず序曲がEs Durで始まるが、これは英雄的なキャラクターを表わし、モーツァルトとシカネーダーが共に会員だったフリーメーソンの理念をも表現しているとのこと、そしてタミーノが登場、続いて3人の侍女、パパゲーノ、夜の女王、ザラストロ、パミーナと次々に人物が登場するたびにちがった調性があらわれ、劇が進行していくさまを、演奏し歌いながら語りすすめて、調性の変化の面白さを実感させてくれた。私はこれまでさまざまな「魔笛」の舞台を見てきたが、この話を聞いたあと、もう一度見直してみたいものと思った。

終わりに第3部では、われわれ日本人にもなじみの深い「野ばら」(ヴェルナー作曲)を参加者みんなに歌わせた。この詩はゲーテが未熟な若年のころ捨てた恋人を思い、後悔の念を歌ったものだとのこと。トニオ氏の求めに応じて、彼の母である志賀リンデさんが詩を朗読。いかにも歌の場面を再現するような読み方に、参加者は「そうだったのか!」と眼を開かせられる思いだった。歌は詩の意図を表現すべきもので、ストーリーのある歌は全部通して、なるべく元調で歌うのが望ましいとのこと。そして再びトニオ氏の指揮で参加者みんなが「野ばら」を歌ったとき、合唱はだいぶましなものになったような気がした。

まことに中身の濃い、楽しい講演会だった。



レクチャーコンサートへ合唱団アムゼルの梶井先生も出席ドイツのオペラハウスの話をトニオ氏の要請もありお話しされました

7月例会 講演

「シーボルトと大山椒魚(おおさんしょううお)」
を聞いて

会員 畑信興



畑信興氏

講師の吉川リサ先生(ニューヨーク州ホバート・アンド・ウィリアム・スミス大学史学科准教授)はポニーテイルの似あう素敵な女性で、波模様縦縞のゆったりしたワンピースのうえに羽織られた黒の薄手のカーディガンには、ハマグリ型の浮世絵風パッチワークが何枚かあしらわれていて、粋なポイントになっていました。

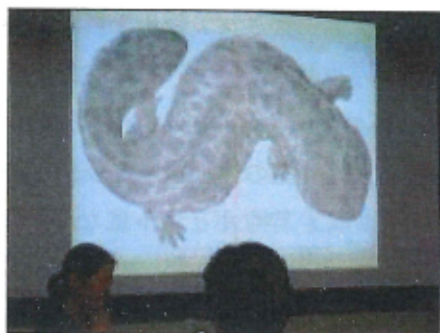


講演する吉川リサ氏

講演はとても興味深いものでした。そもそも、シーボルトと大山椒魚という、どちらもあまり馴染みのない二つのものがどう結びつくのかが好奇心を誘う第一の焦点でした。それはこうして始まったようです。

1823年にオランダ東インド会社から長崎のオランダ商館に医師として派遣されたシーボルトは1826年に商館長の随員として江戸へ参府しました。その際、三重県鈴鹿の地で偶然野生する大山椒魚を見たようです。医学の他に生物の生態研究・採集にも熱心であったシーボルトは初めて見る大山椒魚に驚き・喜び、早速その生態サンプルを母国に送ったようです。欧州では太古に生息したとみられる大型の山椒魚の化石は発見されていましたが現存はしていなかったため、この日本から来た生きた大山椒魚は大評判となり、シーボルトは生物採集家として大いに名をあげました。彼の本来の任務は長崎商館員に対する医療ケアでしたが、この任務を超えて彼は付近住民の診療もし、塾を開いて日本人医師に蘭方医学を教えました。医学以外にも動植物の標本、写し絵、工芸品から浮世絵、日常の生活用具まで熱心に集め本国に送っていました。その中にご禁制の日本地図まで入っていたのを幕府に咎められて、一度は国外追放になっています。(続く)

ともかくこうした膨大なコレクションをもとに欧州各地で日本の博物展を開いたり、Fauna Japonica・「Flora Japonica」などの日本動植物誌の編集・出版に貢献したりして、シーボルトは日本学の第一人者となっていました。長崎出島という同じ小さな穴からお互いを見ていた日本と欧州でしたが、もっと広く、もっと深く見ようという意欲の強さは欧州のほうがはるかに強かったのでしょう。彼は産業革命と市民革命を経て近代化が進んだ欧州の気風を纏った野心家・冒険家だったのだと思います。そしてまた日本も明治維新幕開け直前の時代でした。



さて、吉川先生の講演の主題に戻ります。先生のご研究の中心課題は「日本の近代国家（帝国主義国家）形成と科学知識の関わり」であり、副題の「近代とは何か」「近代国家とは何か」「科学とはなにか」を探究されていくなかで「大山椒魚」に辿り着かれたと最初に話されました。講演を通じて、大山椒魚が日本の近代国家形成や科学知識の敷衍に重大な役割を果たしたと、私によく納得できたわけではなかったのですが、大凡の文脈はこうでした。

19世紀半ばの欧州では海外の珍しい動植物に強い関心があった→ シーボルトが日本の生きた大山椒魚を欧州で展示した→ 化石しか残っていなかった欧州ではこの生き標本に大きな反響があった→ シーボルトが専門家と共同で日本動物誌を刊行し、その中で大山椒魚の詳しい資料を発表した→ ここから学術的な研究が大いに進み、日本からの新たな資料提供・研究発表などを通じて日欧共同研究関係が出来上がり、日本も世界の学会の仲間入りができた→ こんなことから大山椒魚は世界的な規模で近代国家の象徴的な位置づけとなり、日本政府も重要性に気付き、大山椒魚を1927年に保護扱いに、1952年には特別天然記念物に指定して、学会を支援した。

紙面が尽きましたが、まことに大胆で新鮮な歴史観であり、できれば再度のご講演をお願いしたいと思います。

劇場便りその1

志賀 トニオ氏



ブレーマーハーフェン歌劇場
コレペティトール兼指揮者

ドイツは秋が年度始まり。私の仕事場、ブレーマーハーフェンの劇場も9月3日のガラコンサートでいよいよシーズンのスタートです。このガラコンサートでは、オペラ、バレエ、演劇、若者劇場のそれぞれの部門により、今シーズンの見どころが紹介されます。演目はもちろんですが、人の出入りの多い業界、新顔を見る絶好の機会。もちろん新顔にとっては、まず自分の実力を見せる最初の場です。ドイツはここぞという所で実力を発揮する事を重視するお国柄。この最初での印象が、その後の人生を決定します。

後日にはTheaterfest 劇場祭りがあります。通称Tag der offenen Tuer と呼ばれ、近年劇場を身近に感じてもらえる催しとしてドイツ中で行われています。この日は無料で劇場が開放され、劇場の様々な所でコンサートやイベントを楽しめます。例えば、稽古場1で、室内楽、稽古場2でバレエ、稽古場3で演劇、メイク部屋で子供が顔にペイント、裁縫部屋では縫物、大道具で床に絵を描く等々。舞台袖はカフェになり、メインのプログラムではオーケストラの演奏。ここでは通常前日のガラコンサートを短縮した30分程度のミニコンサートが行われる。基本的に劇場のすべてが解放されるので、迷路のような建物を散策するだけでも楽しい。我々は劇場のあちこちで仕事をしないといけないので大変だが、私は子供が4人いるので、劇場側の配慮で出番を少なくしてもらい、子供達と散策三昧。こういう所はやはり家族を大事にするドイツならではの。(続く)



ブレーマーハーフェン歌劇場 (著者撮影)

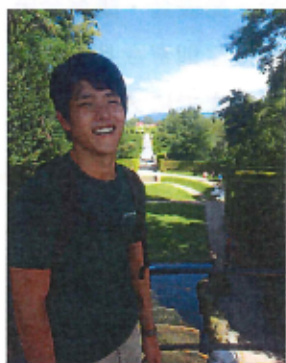
この2日間が終わった後に、オペラ、バレエ、演劇のそれぞれの部門のプレミアとシンフォニーコンサート（今シーズンは例外的にガラの前に一回目のシンフォニーコンサート）が行われる。今シーズンの新演目数は、オペラ部門7、バレエ3（少ないように見えるが、バレエはオペラ部門にも参加している）、演劇10、若者劇場8。シンフォニーコンサート8、室内楽4、ファミリーコンサート3。オペラ部門では、ここの劇場では伝統的にミュージカル1、オペレッタ1、オペラ5の演目を上演し、オペラ5の内訳はイタリア物が必ず1曲、現代曲が2曲入る。詳細はHomepage 参照 <https://www.stadttheaterbremenhaven.de/>



ブレーマーハーフェン中心部を望む

『ドイツとの出会いそしてマインツへ』

マインツ 長谷川孔一郎氏



長谷川孔一郎氏は孔一郎君と呼んだ方が似合う藤沢出身の好青年。Schwatzerei am Stammtisch へも参加この9月よりマインツでの生活を始めたところです。

最初のドイツとの出会いは小学校の時でした。僕の応援していたプロサッカーチームにドイツ人の監督がきて初めてドイツ人を見ました。その人はとても誠実そうな人で皆から慕われているようでした。その頃、ドイツを意識していたかわかりませんがそれがドイツとの最初の出会いだったと思います。それから中学校で進路の事を考えるようになって、本当に何がやりたいのかそして何をやりたくないのか。

それを考えた時に“外国に行きたい”と心のどこかで思ったのを覚えています。当時まだ旅行でも外国に行ったことがなかったので一度自分の目で見て、肌で感じたいと。どんなに日本と違うかを。そしてそんなに大して違わないんじゃないかと思ったのも事実です。父と母も賛成でどんどん行ってこいと。1人で生活することの大変さを学んでこいと。

ですが中学生の僕には何をどうしたら外国に行けるのか、そもそも外国とは言っても具体的にどこに行って何をするのか全く分かってなかったようです。

本気度も足りなかったのでしょうか。それに加えて当時はサッカーのことばかり考えていたので高校サッカーが一番明確で近い目標だったんだと思います。なのでサッカーのために高校へ行きました。高校最後の年、年子の兄がイギリスへ語学留学にきました。これも大きな影響の1つだったと思います。

僕は今でもそうですが変わりものでしたので、留学でポピュラーなアメリカや、イギリス、オーストラリアなどの英語圏には全く興味がなく、第二外国語、特にヨーロッパになんとなくですが憧れ、そして惹かれていたと思います。それとサッカーには関わって行きたいこと、教えることが好きなこと、サッカー選手としては大成しなかったことを踏まえてトレーナーになりたいと思うようになりました。そこから逆算して、トレーナーになるにはどこの国がベストか。ここで出てきたのがドイツでした。そこから家族や友人、学校の先生に公言するようになって自分の中でも、とりあえず行こう。行ったら何かわかるかもしれない。トレーナーになるためにはまず語学だと。このような経緯でとんとん拍子でドイツに語学留学をすることが決まりました。（続く）



ドイツ野菜のおいしさにびっくり！

(前頁からの続き)

ちなみに写真は、この前の週末にミニ旅行に行ったので。Schloss Schwetzingen です。僕は写真をあまり撮らないものなのでうまくはないですが。野菜は近くの農家で買ったオーガニックの野菜です。こんなに甘くて美味しい野菜を食べたのは初めてです。

では、皆様が日本で良い夏を過ごされることをドイツから願っております。

(2016年8月10日メール)

新しい発見・友達ができます

湘南日独協会ドイツ語講座 (2016 秋冬期)

講座ではドイツ語の発音の基礎から始まり、各クラスに応じた授業では基本的な文法を使って、日常的なごく簡単な場面での会話ができるようになることを目指します。テキスト Schritte をはじめ適宜プリントを配布して表現力・語彙力を高めて一歩進んだコミュニケーション力を身に付けます
講座はドイツ人と日本人講師が担当します。これからドイツ語を始めてみたい人は一度連絡ください。

講座は土曜日に開かれます。

初級1 13:25~14:55

初級2 11:40~13:10

中級 10:00~11:30

講読 10:00~11:30

場所: 藤沢商工会館ミナパーク

詳細は下記までお問合せください。

ドイツ語担当 鬼久保 洋治

E-mail: alphorn@jasmine.ocn.ne.jp

TEL: 090-4090-6560

藤沢奥田公園の菩提樹のその後

2016年3月発行第105号でお知らせしました菩提樹、現在は写真のように保護され順調に育っています。機会があれば訪ねてください。



湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」 団員募集 2年後の15周年記念を ご一緒に歌いましょう!



写真は10周年記念演奏会(鎌倉芸術館)の一部です。現在団員約50名で練習に励んでいます。

練習は第1、第3、第5(ある月)の水曜日13時30分より、カトリック教会藤沢ホールで梶井智子先生のご指導を頂いております。

現在の主な練習曲目は「美しく青きドナウ」「ウィーンわが夢の街」、ブラームスの「愛の歌」モーツァルトの「夕べの想い」そして、ドイツ民謡と日本の歌「荒城の月」「雪の降る街を」などです。見学も歓迎します。

連絡先: 水谷妙子 電話045-895-6845

会員の皆様へのお願い

会員の皆さんの日頃のご活躍を会報でお知らせしたいと思います。演奏会・展覧会・発表会・講演会等の予定をお知らせ下さい。会報は原則奇数月の第2日曜日発行予定です。前月の中旬までにメール・郵便のいずれでも結構です。お待ちしております。

編集後記

○ドイツ在住の志賀トニオ氏と長谷川孔一郎氏より寄稿頂きました。今後も継続的に掲載したいと思います。皆様からのご意見ご質問などありましたら、お知らせ下さい。

○今年の湘南オクトーバーフェストは従来よりも会員相互の懇親の場としての会を目指しています。音楽・食事・そして会話を楽しみましょう。開始時間も早い時間帯になりました。申し込みは早めをお願いいたします。

○会報 Der Wind の紙面を利用してより多くの情報を発信したいと思います。次号は11月13日発行予定です。皆様の情報・ご意見をお寄せ下さい。
(大久保)